

安足地域水稻技術情報 No. 3

令和 8 (2026) 年 7 月 29 日
安足農業振興事務所

- 生育に合った水管理を行いましょう
- ほ場や生育に合わせて、中干しを行いましょう

1 水稻生育診断ほ場(佐野市石塚町)の生育調査結果

平年と比較して、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉齢から見た生育は3日程度遅れています。

6月15日移植のとちぎの星では、最高分げつ期前頃になっています。

表1 水稻(品種：とちぎの星)の生育調査結果

	7月21日 調査	平年比・差
草丈(cm)	62.2	109%
茎数(本/㎡)	358	98%
葉齢	9.7	-0.6
葉色(葉色板)	5.0	+0.3

移植日：6月15日



写真 水稻生育診断ほ場の様子

2 今後の気象

気象庁が7月23日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は「高い」、降水量は「平年並み」、日照時間は「平年並み」と予想されています。

表2 関東甲信地方(栃木県)の1か月予報(2026年7月23日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）					
気温	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/25～08/24	10 30 60		
		1 週目 07/25～07/31	10 40 50		
		2 週目 08/01～08/07	10 20 70		
		3 ～ 4 週目 08/08～08/21	10 40 50		
降水量	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/25～08/24	30 40 30		
日照時間	関東甲信地方	向こう 1 か月 07/25～08/24	30 40 30		
低い(少ない) 平年並 高い(多い)					

3 これからの作業のポイント

(1) 茎数を確認して、必要な水管理を行いましょう

十分な茎数(表3)を確保したほ場は、間断かん水(図2)を開始しましょう。間断かん水を行うことで、稲の根に水と酸素が供給され、根張りが良くなります。

確保できていないほ場は、浅水管理等で水温を高く保ち、分げつの発生を促進させましょう。



図1 茎数の数え方

表3 間断かん水開始の目安

栽植密度	とちぎの星 (340 本/㎡)	あさひの夢 (360～380 本/㎡)
50 株/坪植え	23 本/株	24 本/株
60 株/坪植え	19 本/株	20 本/株
70 株/坪植え	16 本/株	17 本/株

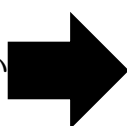
注) () の数値は目標茎数を示す



図2 間断かん水のイメージ

(2) ほ場や生育に合わせて、中干しを行いましょう。中干し後は、間断かん水を行いましょう。

- 水はけが悪い
- 茎数が多すぎる、葉色が濃い
- 毎年倒伏してしまう



最高分げつ期前後(6月中旬移植の場合、7月下旬～8月上旬)に、7～10日の中干しをしましょう。

《中干しの効果》

- ① 無効茎(穂の付かない茎)を減らし、適正な生育量を維持する
- ② 下位節間の伸長を抑えて、倒伏しにくい稲にする
- ③ 土壌中に酸素を供給して根の健全化を図る

《中干しの方法》

- ・ 田面に幅 5mm 位のヒビが入り、足跡がつく程度まで干す
- ・ 生育量の多い場合は強め(田を楽に歩ける程度)に、生育量が少ない場合は弱め(小ヒビが入り軽く足跡がつく程度)に干す
- ・ 水持ちのよい場合は期間を長く、水持ちの悪い場合は期間を短くする

注意)

強すぎる(大きなヒビが入る)中干しは、断根で稲が弱ったり、水持ちが悪くなったりするため控えましょう。



(3) 斑点米カメムシ類の防除を適期に行いましょう。

○除草

水稻の出穂 2～3 週間前(除草①) 及び出穂期頃(除草②) の計 2 回、水田内、畦畔、農道等を除草しましょう(図 3)。2 回の除草が困難な場合は、水稻の出穂期 10 日前までに実施しましょう。また、出穂期前後のみの除草は、斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むおそれがあるため行わないようにしましょう。

○薬剤防除

・ 不稔被害を防ぐため、出穂期頃に薬剤散布(薬剤散布①)を行いましょう。
 ・ 斑点米被害を防ぐため、1 回目散布から 7～10 日後の薬剤散布(薬剤散布②)を行いましょう。その後も斑点米カメムシ類が認められる場合は、7～10 日間隔で 1～2 回追加防除しましょう。



図 3 イネカメムシ発生地域における斑点米カメムシ類の総合防除体系

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0283-23-1431

ホームページ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>